



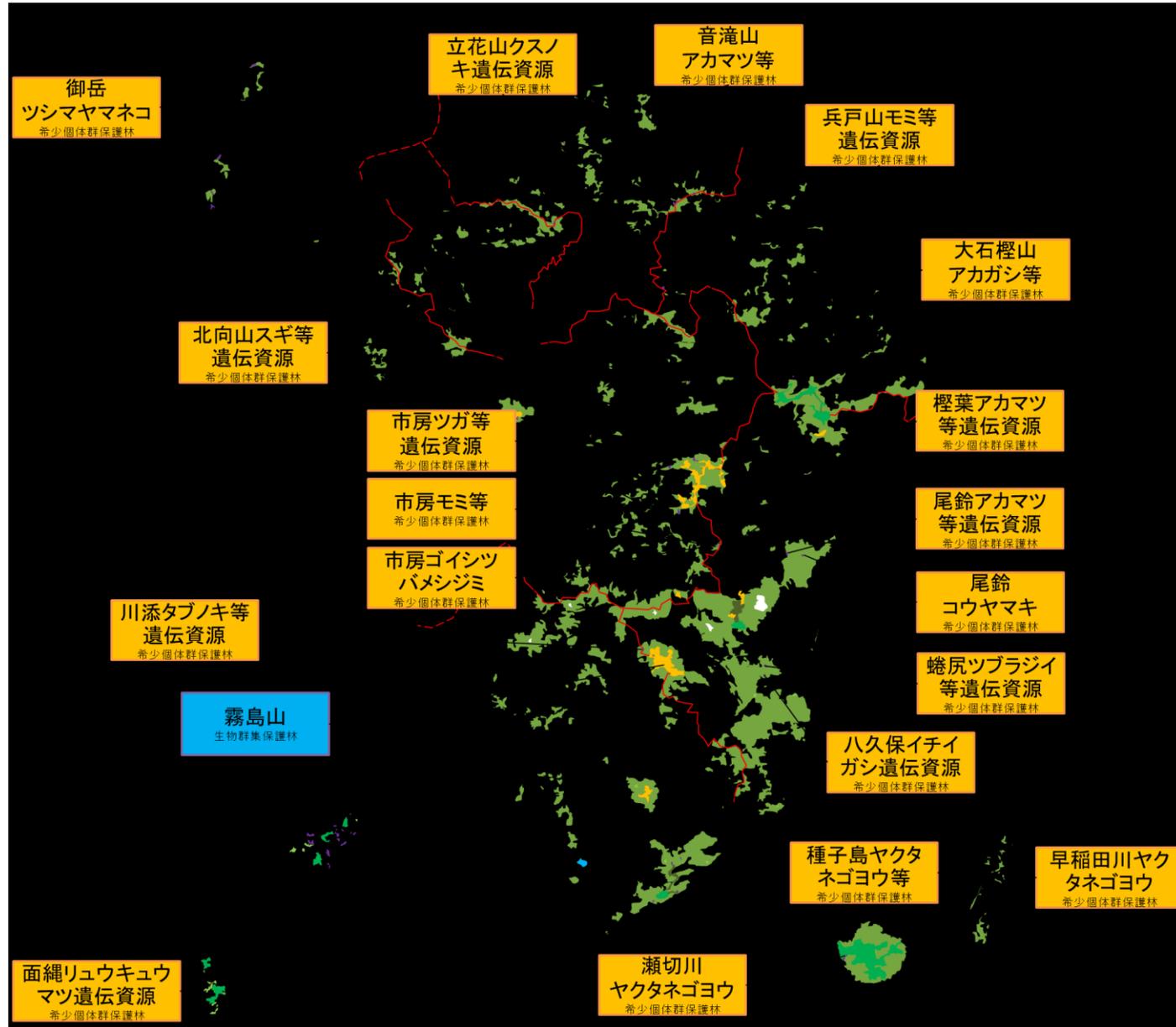
# 平成31年度保護林モニタリング調査予定箇所一覧

No.	名称	森林管理署	ページ	No.	名称	森林管理署	ページ
生物群集保護林				⑩	おおいしかしやま 大石櫛山アカガシ等	大分	15
①	きりしまやま 霧島山	都城・鹿児島	6	⑪	かしば 櫛葉アカマツ等遺伝資源	宮崎北部	16
希少個体群保護林				⑫	おすず 尾鈴アカマツ等遺伝資源	西都児湯	17
②	たちばなやま 立花山クスノキ遺伝資源	福岡	7	⑬	おすず 尾鈴コウヤマキ	西都児湯	18
③	いんたきやま 音滝山アカマツ等	福岡	8	⑭	はちくぼ 八久保イチイガシ遺伝資源	宮崎	19
④	みたけ 御岳ツシマヤマネコ	長崎(対馬)	9	⑮	になじり 蝮尻ツブラジイ等遺伝資源	宮崎	20
⑤	きたむきやま 北向山スギ等遺伝資源	熊本	10	⑯	かわぞえ 川添タブノキ等遺伝資源	鹿児島	21
⑥	いちふさ 市房モミ等	熊本南部	11	⑰	おもなわ 面縄リュウキュウマツ遺伝資源	鹿児島(徳之島)	22
⑦	いちふさ 市房ツガ等遺伝資源	熊本南部	12	⑱	たねがしま 種子島ヤクタネゴヨウ等	屋久島(種子島)	23
⑧	いちふさ 市房ゴイシツバメシジミ	熊本南部	13	⑲	わせだがわ 早稲田川ヤクタネゴヨウ	屋久島(種子島)	24
⑨	ひょうどやま 兵戸山モミ等遺伝資源	大分西部	14	⑳	せきれがわ 瀬切川ヤクタネゴヨウ	屋久島(屋久島)	25

# 平成31年度 調査予定箇所 (全20箇所)

生物群集保護林

希少個体群保護林



# 調査項目選択の基本的な考え方①

## モニタリング調査体系表(保護林モニタリング調査マニュアルP32~37参照) 生物群集保護林(参照)

保護林の機能 評価の観点	基準	指標	モニタリング調査項目		モニタリング調査手法 (モニタリング調査項目に対して複数の調査手法の区分が示されている場合には、原則として1 手法、特に必要がある場合には複数の手法を選択)		手法・野帳様式集 該当箇所	
			評価の観点	調査の選択(必須/選択)	調査手法の区分	調査手法の例		
デザイン	地域固有の生物群集を有する森林が維持されている	自然状態が十分保存された天然林等の構成状況	森林タイプの分布等状況調査	保護林内及び周辺の森林タイプの構成がどのように変化しているか、保全利用地区においては、天然林への移行が進んでいるか	選択	資料調査	最新の森林調査簿、国有林野施業実施計画図等を利用し、保護林情報図(森林タイプごとの面積・分布)を整理	A
			樹種分布状況調査	地域固有の生物群集を有する森林として自然状態が十分保存された天然林等たるべき樹種分布・構成となっているか	選択	リモートセンシング	調査時点における最新の空中写真等を取得・整理	B
			樹木の生育状況調査	樹木の生育が、地域固有の生物群集を有する森林として自然状態が十分保存された天然林等たるべき状態にあるか	必須	資料調査	既存資料(森林生態系多様性基礎調査、モニタリングサイト1000等)を活用し、樹木の生育状況を整理	C
価値	森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護が図られている	野生生物の生育・生息状況	下層植生の生育状況調査	地域固有の野生生物(植物)が生育しているか。外来種や特定の植物のみが増えているか	必須	森林概況調査	調査表及び全天球写真を利用し、樹木の生育状況を観察	D
			野生動物の生息状況調査	地域固有の野生動物が生息しているか	選択	資料調査	既存資料(森林生態系多様性基礎調査、モニタリングサイト1000等)を活用し、下層植生の生育状況を整理	F
		森林の被害状況	山火事・山腹崩壊・地すべり・噴火等の災害発生状況調査	災害がどこで発生しているか、被害状況はどの程度か	選択	資料調査	災害履歴情報等(災害復旧、防災関連事業)を利用し、災害種類や件数、面積、分布等を整理	J
			病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査	病虫害・鳥獣害・気象害は発生しているか、被害状況はどの程度か	選択	リモートセンシング	保護林区域を明示した空中写真を(立体視)判読して、大規模な災害発生箇所(山腹崩壊等)を確認	K
			病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況調査	病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査	必須	資料調査	既存資料等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査	L
			病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況観察	調査表やチェックシート等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を観察	D	森林詳細調査	プロット内の樹木の病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を定量的に調査	M
利用	森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている	学術研究での利用状況	論文等の発表状況調査	主にどのような学術研究に利用されているか	選択	資料調査	インターネット等を利用し、学術論文数等を整理	N
管理体制	適切な管理体制が整備されている	保護林における事業・取組実績、巡視状況等	外来種駆除、民国連携の生物多様性保全に向けた事業・取組実績、巡視の実施状況調査	対象保護林の設定目的や課題に対応した管理体制、事業・取組となっているか	選択 (保護林等整備・保全対策による事業等が行われている場合には必須)	聞き取り調査	業務資料や担当官への聞き取り調査により、保護林の管理体制、事業・取組実績を確認	O

## 調査項目選択の基本的な考え方②

モニタリング調査体系表  
(モニタリング調査項目のうち  
「調査の選択(必須/選択)」)

必須

選択

調査項目の選択

確実に調査を実施

継続性等を考慮し、  
必要に応じて調査を実施

保護林の設定目的・状況に応じ、必要性、優先度を検討の上、選択するか判断

※保護林モニタリング調査マニュアルP11,32～37参照

# 調査手法選択の基本的な考え方

前回のモニタリング調査結果等

調査手法の選択

※必須項目の調査は必ず実施

シカ食害・病虫害等により、植生変化が懸念、  
個体群の消失が危ぶまっている箇所

森林**詳細**調査

調査プロットを設定して保護林の状況を把握する**詳細な現地調査**

毎木調査



植生調査

特に問題が認められていない

森林**概況**調査

チェックシート等を用いて保護林の状況を把握する**簡易な現地調査**

※保護林モニタリング調査マニュアルP15,16参照

きりしまやま

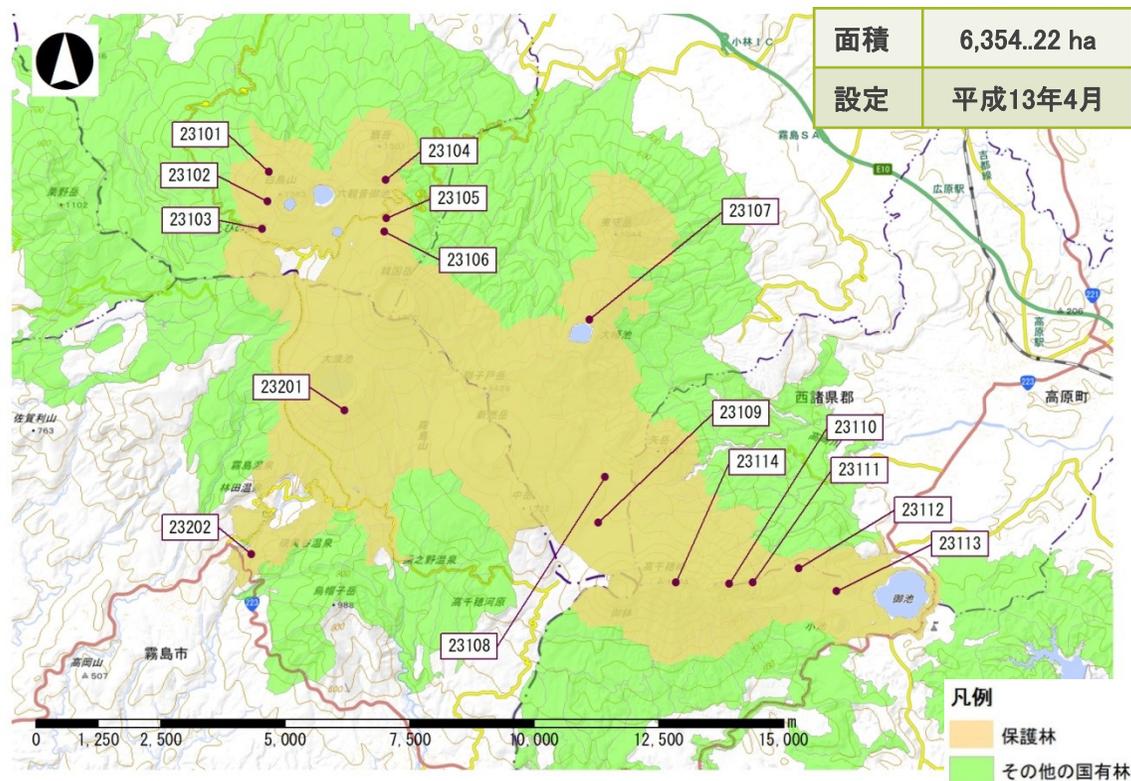
# ①霧島山生物群集保護林

宮崎県と鹿児島県の県境に位置し、霧島山の最高峰の韓国岳(標高1,700m)や高千穂峰(標高1,574m)を中心に20余の火山群からなっている。えびの高原は標高1,200m、高千穂河原は標高約970mの標高に位置している。



保護・管理を図るべき事項

キリシマミツバツツジやキリシマタヌキノショクダイ等の霧島山固有種のほか、ミヤマキリシマの大群落、ノカイドウアカマツの巨木林、甌岳の照葉樹林などを保護する。



## H21・26 調査結果(森林調査・動物調査・シカ被害調査)

- 全域でシカ被害(シカ被害レベル1~4)(H26)
- モミの枯損、マツノザイセンチュウによる被害が確認
- クマタカ・コシジロヤマドリが生息が確認(H21)

## H31調査

【必須項目】森林**詳細**調査・資料調査

## 【選択項目】

### ◆動物調査

シカ被害等による植物相の変化が、鳥類の生息に与える影響を調査

たちばなやま

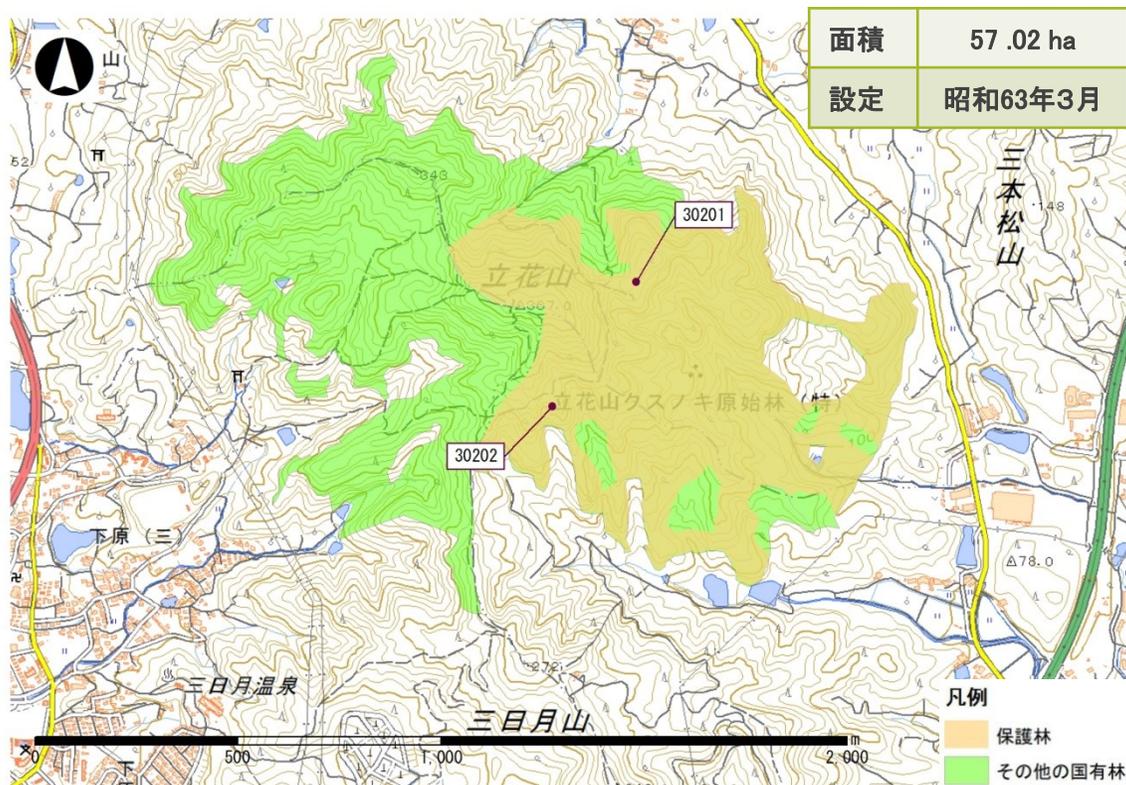
## ②立花山クスノキ遺伝資源希少個体群保護林

立花山の中腹に位置している。林内にはクスノキ群生地(樹齢300年以上)の北限ともいわれる原生林がある。昭和30年8月に国の特別天然記念物と「森の巨人たち100選」に選ばれた立花山大クス(樹齢推定300年以上・幹周7.85m・樹高30m)がある。



保護・管理を図るべき事項

クスノキ原生林を保護する。



### H20・25 調査結果 (森林調査・シカ被害調査)

- シカ被害が初期段階(シカ被害レベル0~1)(H25)
- タケの繁茂が懸念される
- 希少植物種:カラタチバナ、シタキソウ等が生育

### H31調査

【必須項目】森林**詳細**調査・資料調査

### 【選択項目】

#### ◆聞き取り調査

シカの侵入拡大状況について登山客や森林官等から情報を入手

いんたきやま

### ③音滝山アカマツ等希少個体群保護林

県道と九州自然歩道に接しており、九州自動車道の福知山トンネルが横断している。林相は、アカマツ、クロマツ、その他、天然林広葉樹がある。林内には瀧観音が祀られている。



保護・管理を図るべき事項

アカマツ、クロマツ、その他広葉樹の天然林を保護する。



#### H22 調査結果(森林調査・シカ被害調査)及び署等からの報告

- シカ被害は確認されていない
- 林冠層にはカゴノキ、スダジイ等が多く生育する
- 後継個体は豊富である
- 松枯れ被害が確認されている(署からの報告)

#### H31調査

【必須項目】森林詳細調査・資料調査

#### 【選択項目】

##### ◆聞き取り調査

シカの侵入拡大状況について登山客や森林官等から情報を入手

みたけ

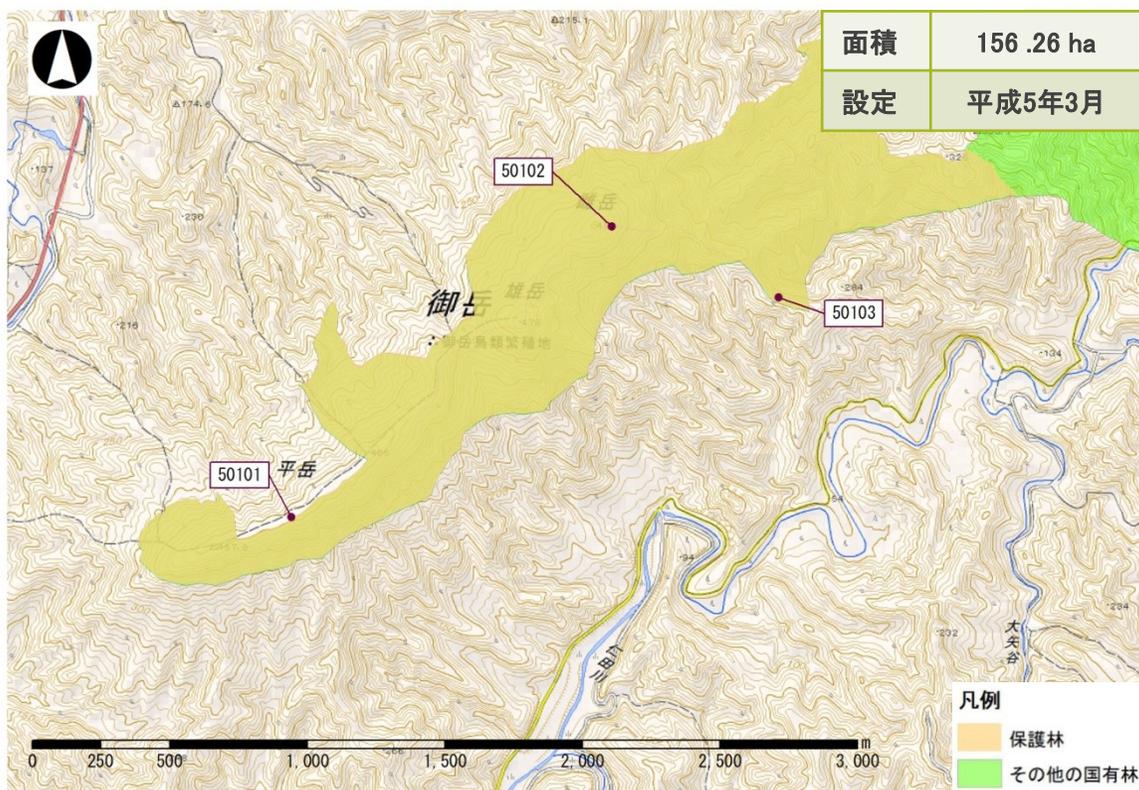
## ④ 御岳ツシマヤマネコ希少個体群保護林

対馬上島のほぼ中央部に位置し、雄岳(標高494m)、雌岳(標高458m)、平岳(標高457m)の3峰を中心として、林相は、対馬では数少ないモミとアカガシを中心とする広葉樹の針広混交の老齢天然林である。



保護・管理を図るべき事項

ツシマヤマネコの繁殖地及び生息地等の保護をする。



### H20-25 調査結果 (森林調査・動物調査・シカ被害調査)

- 全域でシカ被害 (シカ被害レベル2) (H25)
- 希少植物種 : ヒメコマツ、ゲンカイツツジ、ヒメミヤマスミレ、ベニシュスラン等が生育(H25)

### H31調査

【必須項目】森林**詳細**調査・資料調査

### 【選択項目】

- ◆ 動物調査:シカ被害がツシマヤマネコの餌資源(小型ほ乳類)へ与える影響
- ◆ 聞き取り調査:民間の取組み状況を把握するため。

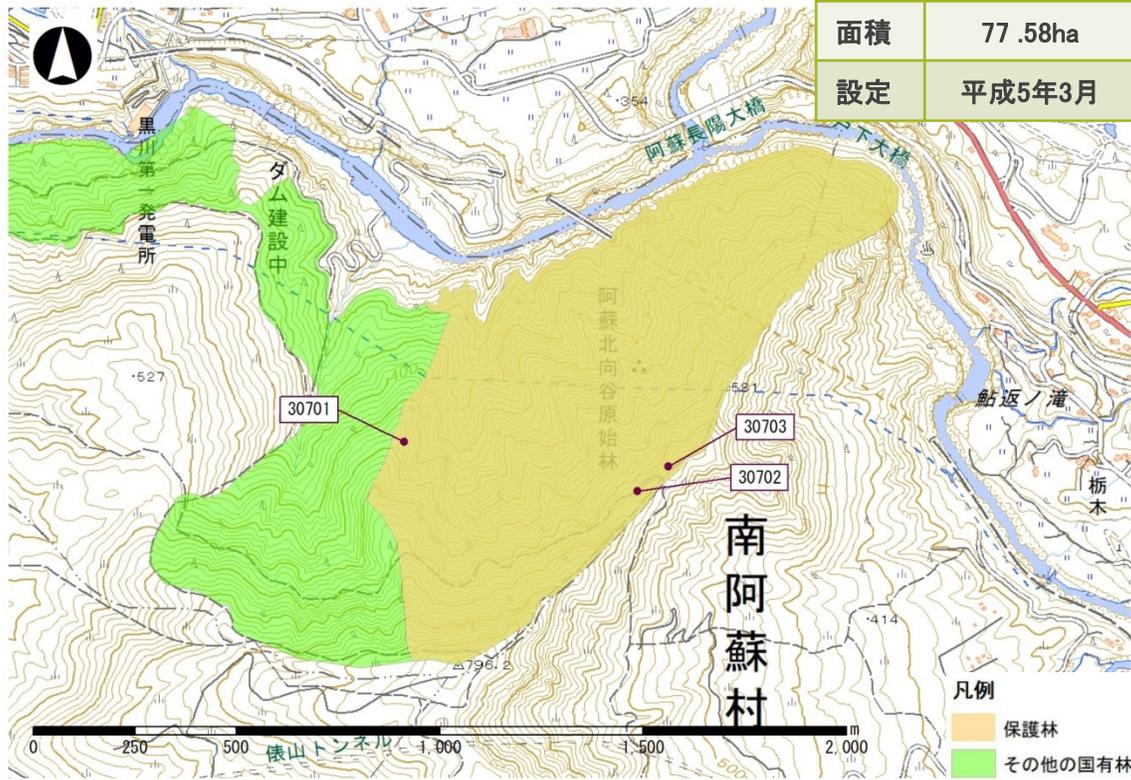
# ⑤北向山スギ等遺伝資源希少個体群保護林

阿蘇外輪山の立野火口瀬の南側に位置しており、標高600mの急峻な斜面にはシラカシ、タブノキ、コナラ等の広葉樹を主体とする林分があり、九州中央部に残存する自然林としては、学術上高く評価されている。



## 保護・管理を図るべき事項

スギ、コナラ、クヌギ、ウラジロガシ、クマシデの保護をする。



## H20-25 調査結果 (森林調査・シカ被害調査)

- シカ被害が初期段階 (シカ被害レベル0~1) (H25)
- 倒木が見られ一部にギャップが見られるものの、林分の大部分は安定している(H25)

## H31調査

【必須項目】森林**詳細**調査・資料調査

【選択項目】

- ◆リモートセンシング  
山腹崩壊のおそれがあるため状況を把握する。

いちふさ

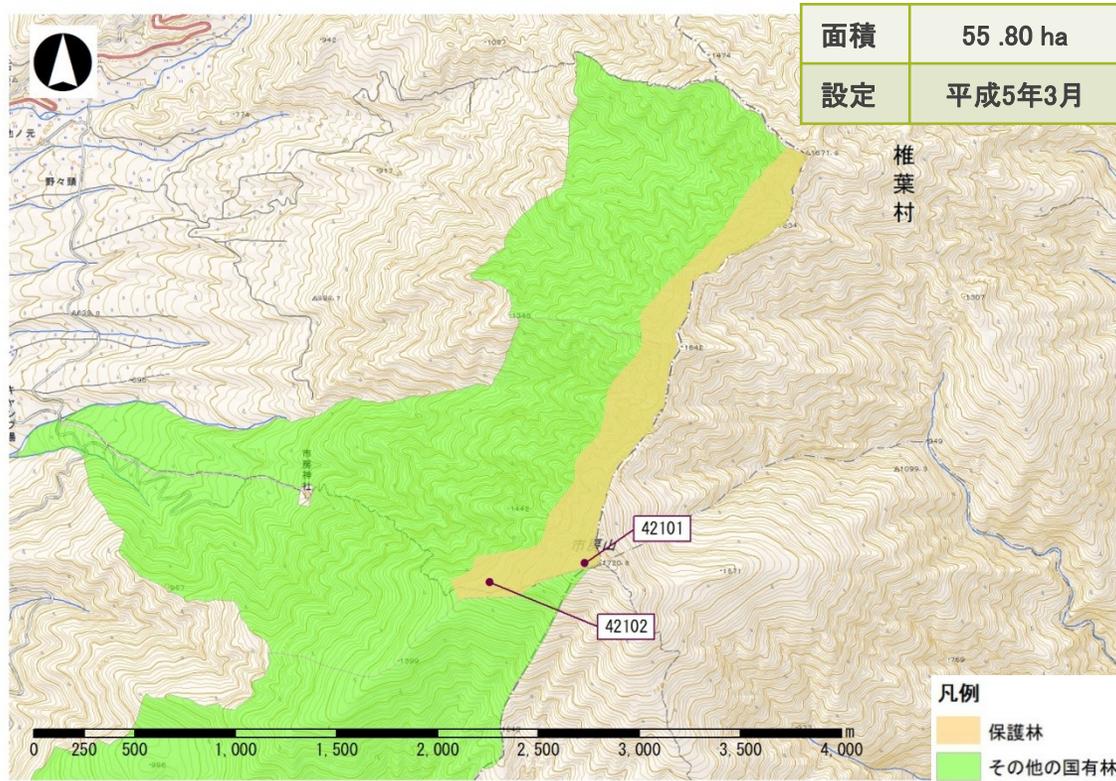
## ⑥市房モミ等希少個体群保護林

熊本県水上村と宮崎県西米良村界にある市房山(標高1,721m)を頂点とする位置にあり、標高 1,000m~1,100mである。



保護・管理を図るべき事項

モミ、ツガ、カエデ、ミズナラ等の市房の中核となる山頂周辺の原生林を保護する



### H22-27 調査結果 (森林調査・シカ被害調査)

- 全域でシカ被害 (シカ被害レベル3~4) (H27)
- 一部プロットでスズタケが優占
- 希少植物種: ツクシアケボノツツジ・ヒメスギランが生育

### H31調査

【必須項目】森林**詳細**調査・資料調査

いちふさ

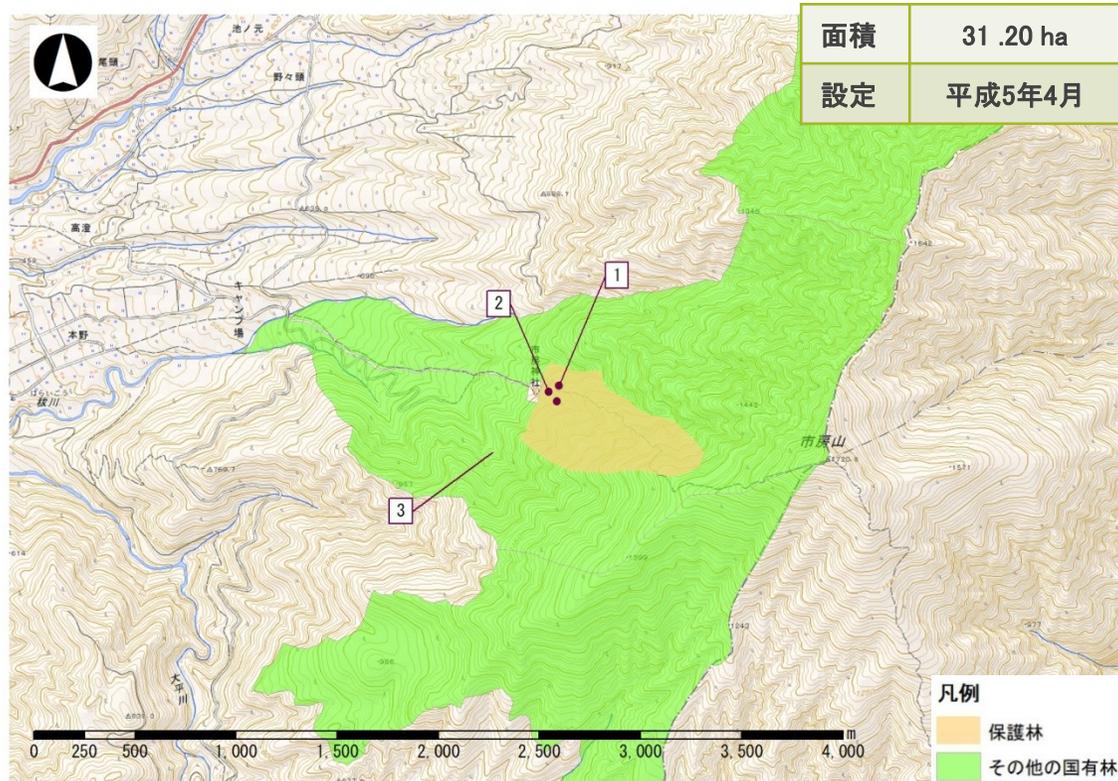
## ⑦市房ツガ等遺伝資源希少個体群保護林

球磨郡水上村の市房山(標高1,721m)の西側中腹に位置し、下方には市房ダムがある。林相は、ツガ、ヒメコマツ、ケヤキ、シオジ等の原生林に覆われ、天然記念物に相当する程の大径木や動植物等の宝庫である。



保護・管理を図るべき事項

ツガ、ヒメコマツ、サワグルミ、ケヤキの保護をする。



### H22 調査結果 (森林調査・シカ被害調査)

- シカ被害が初期段階 (シカ被害レベル1)
- 保存対象樹種の後継個体は確認されなかった

### H31調査

【必須項目】森林**詳細**調査・資料調査

### 【その他】

プロット外: 保存対象種であるヒメコマツの生育状況を評価する。

いちふさ

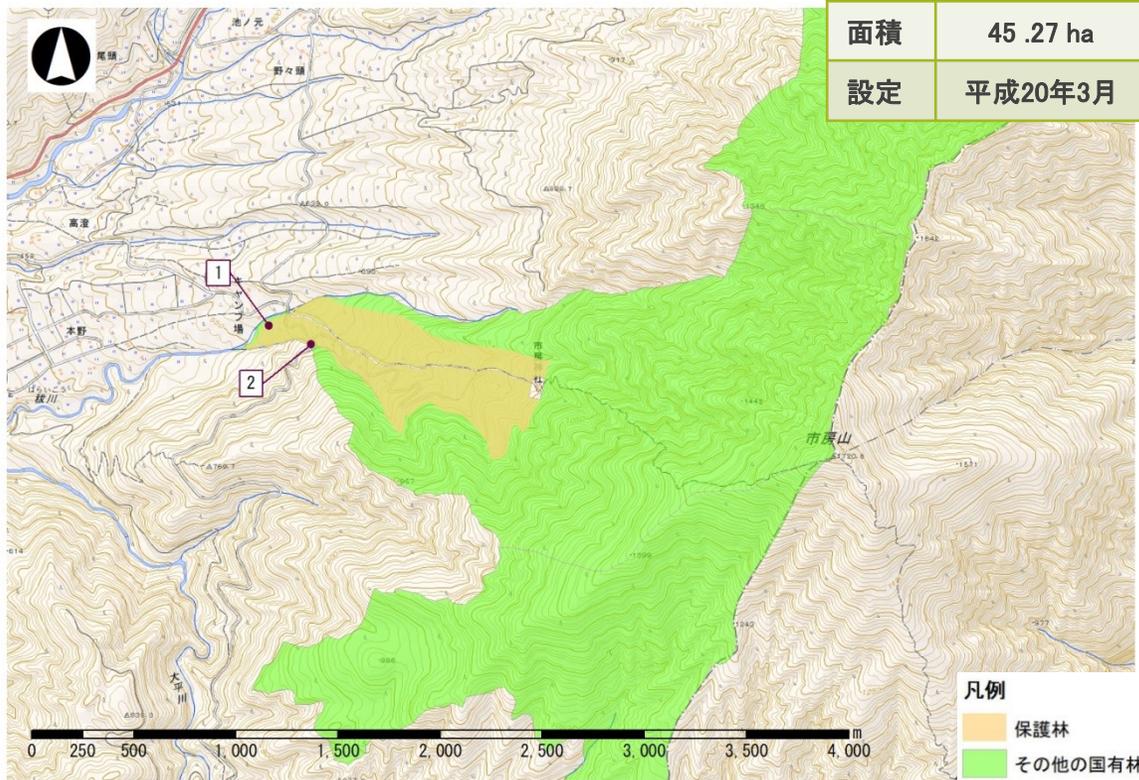
## ⑧市房ゴイシツバメシジミ希少個体群保護林

市房山(標高1,721m)の西側斜面、市房神社付近に位置している。林相は、市房神社の参道を中心として、ウラジロガシ、イチイガシ、アカガシ等の照葉樹の大径木を上層木とする原始的な森林が発達している。



保護・管理を図るべき事項

ゴイシツバメシジミの繁殖地及び生息地の保護



### H22 調査結果 (森林調査・動物調査・シカ被害調査)

- シカ被害が初期段階 (シカ被害レベル0~1)
- 着生植物の生育が多くみられる

### H31調査

【必須項目】森林**詳細**調査・資料調査

### 【選択項目】

#### ◆動物調査

シカ被害等がシンラン・ゴイシツバメシジミ等を与える影響を評価

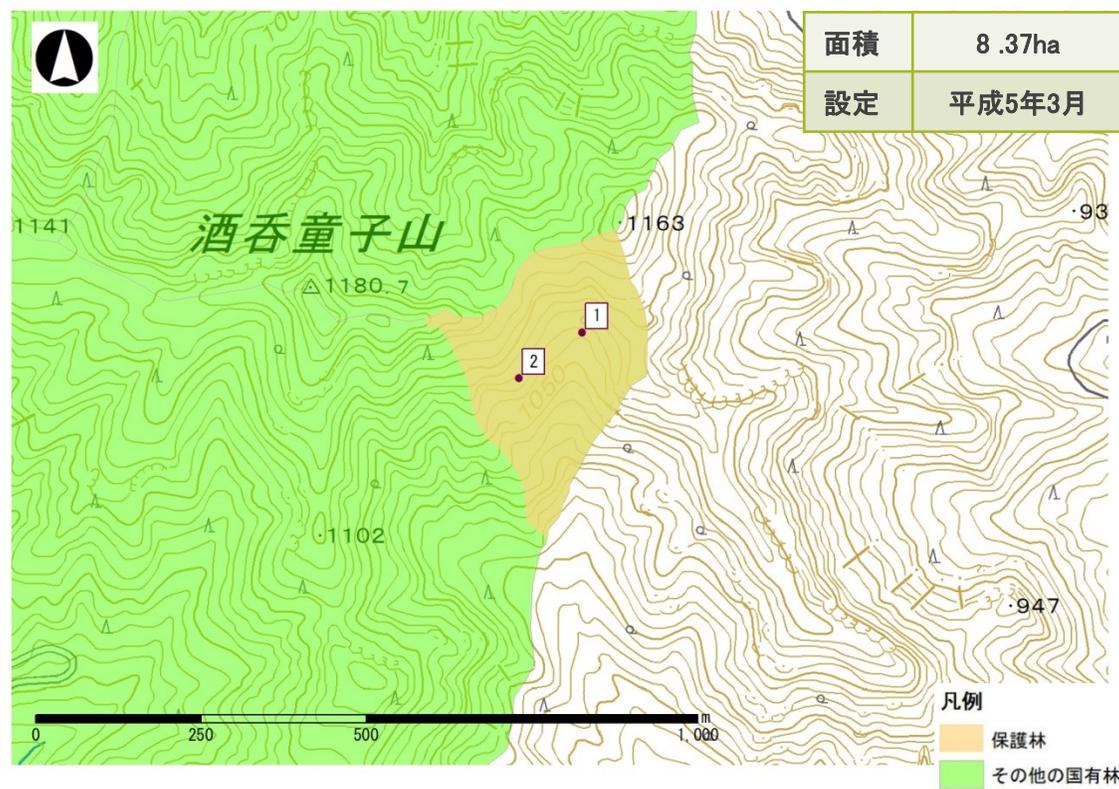
# ⑨ 兵戸山モミ等遺伝資源希少個体群保護林

中津江村と上津江村境沿いで、兵戸山(通称:酒呑童子山)や酒呑峰に隣接する地域に位置している。林況はモミ、アカシデ、ミズナラを主体とする天然林であり、新緑、紅葉が美しく、登山やハイキングの場として広く親しまれている。



保護・管理を図るべき事項

モミ、アカシデ、ミズナラの保護をする。



## H22 調査結果 (森林調査・シカ被害調査)

- シカ被害は確認されていない
- スズタケが優占しているため、後継個体や他の草本の生育は少ない状況

## H31調査

【必須項目】森林**詳細**調査・資料調査

## 【選択項目】

### ◆聞き取り調査

シカの侵入拡大状況について登山客や森林官等から情報を入手

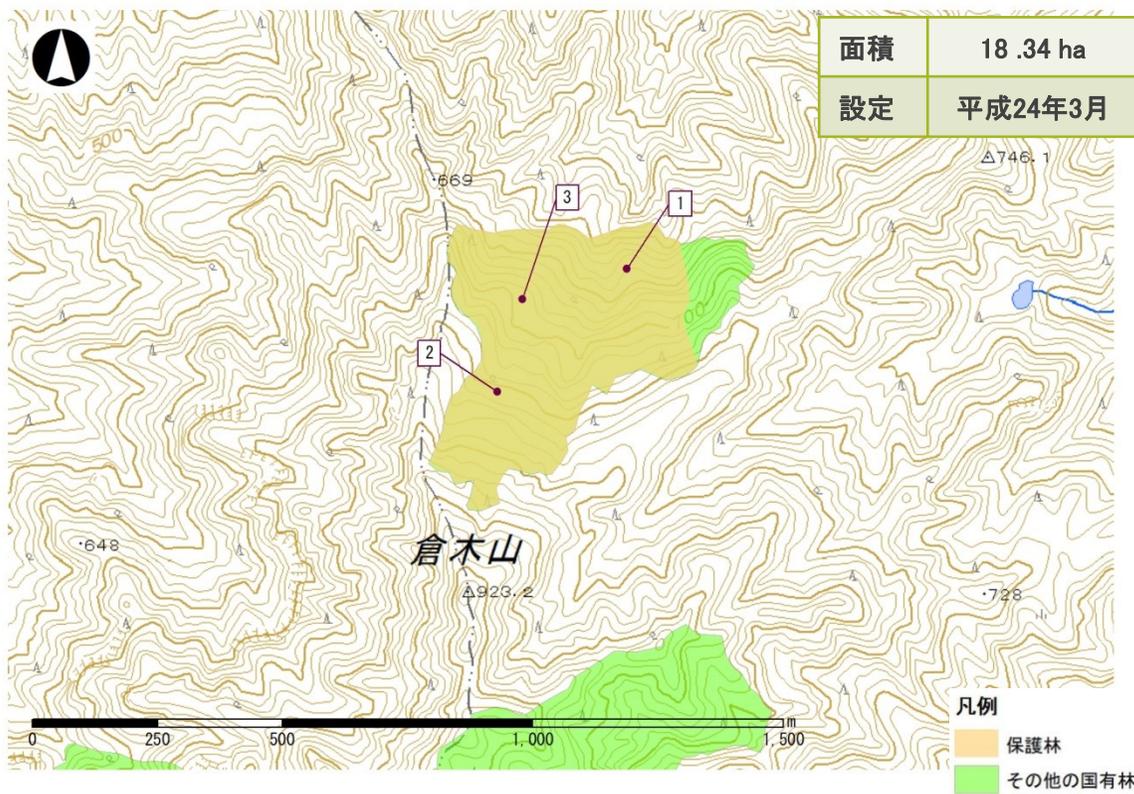
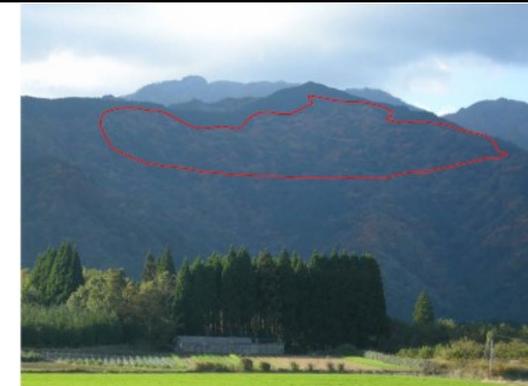
おおいしかしやま

# ⑩大石櫛山アカガシ等希少個体群保護林

祖母山の北東山稜部に位置し、周囲はスギ・ヒノキ人工林であるが、当該地域は全域がミヤマシキミーアカガシ群集からなり、アカガシ・ウラジログシ・ケヤキ等の大径木が生育するとともに、スギラン・マツラン・セッコク等の希少植物も生育している。

保護・管理を図るべき事項

ミヤマシキミーアカガシ群集等を保護する。



## H22 調査結果 (森林調査・動物調査)

- アカガシ、ウラジログシ、ケヤキ等の大径木が生育
- 希少植物種：スギラン・マツラン・セッコクが生育
- 食痕や角研ぎ跡等のシカ被害が確認された

## H31調査

【必須項目】森林**詳細**調査・資料調査

かしば

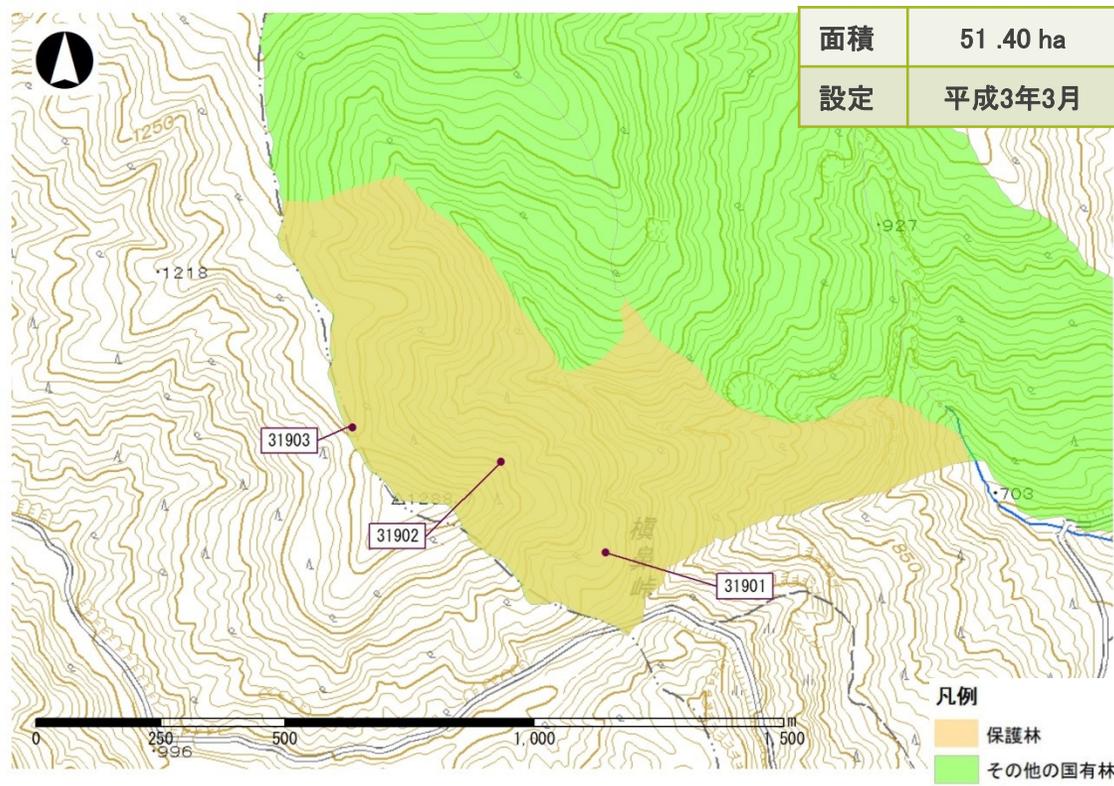
# ⑪ 檜葉アカマツ等遺伝資源希少個体群保護林

美郷町三方岳の麓、小丸川支流の渡川最上流部に位置し、標高700m～1,300m東に向いた急傾斜地にある。林相は、アカマツ、ヒメコマツ、コウヤマキ、ミズメ、ミズナラ等の天然林の針広混交林となっている。



保護・管理を図るべき事項

アカマツ、ヒメコマツ、コウヤマキ、ミズメ、ミズナラの保護



## H21-26 調査結果 (森林調査・シカ被害調査)

- 全域でシカ被害 (シカ被害レベル3~4) (H26)
- シカの食害により後継個体が確認されていない
- 着生植物キヨスミコケシノブを確認

## H31調査

【必須項目】森林**詳細**調査・資料調査

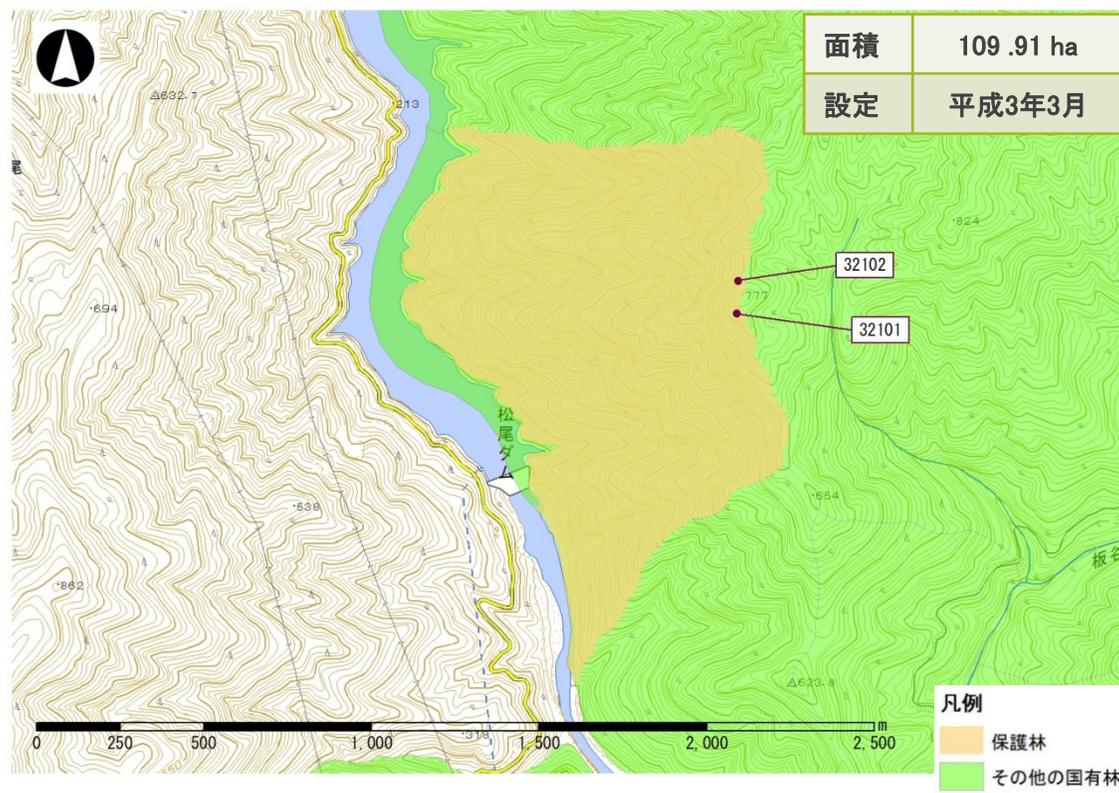
おすず

## ⑫尾鈴アカマツ等遺伝資源希少個体群保護林

木城町小丸川上流部の尾鈴山西部で、松尾ダムに接する位置にある。林相は、天然林で樹齢170年生のアカマツ、コウヤマキ、イチイガシ、タブノキ等の針広混交林となっている。

保護・管理を図るべき事項

アカマツ、コウヤマキ、イチイガシ、タブノキの保存



### H22-26 調査結果 (森林調査・シカ被害調査)

- 全域でシカ被害 (シカ被害レベル4) (H26)
- 一部プロットでは下層植生がほとんどみられない
- 希少植物種：マメツタランが生育

### H31調査

【必須項目】森林**詳細**調査・資料調査

おすず

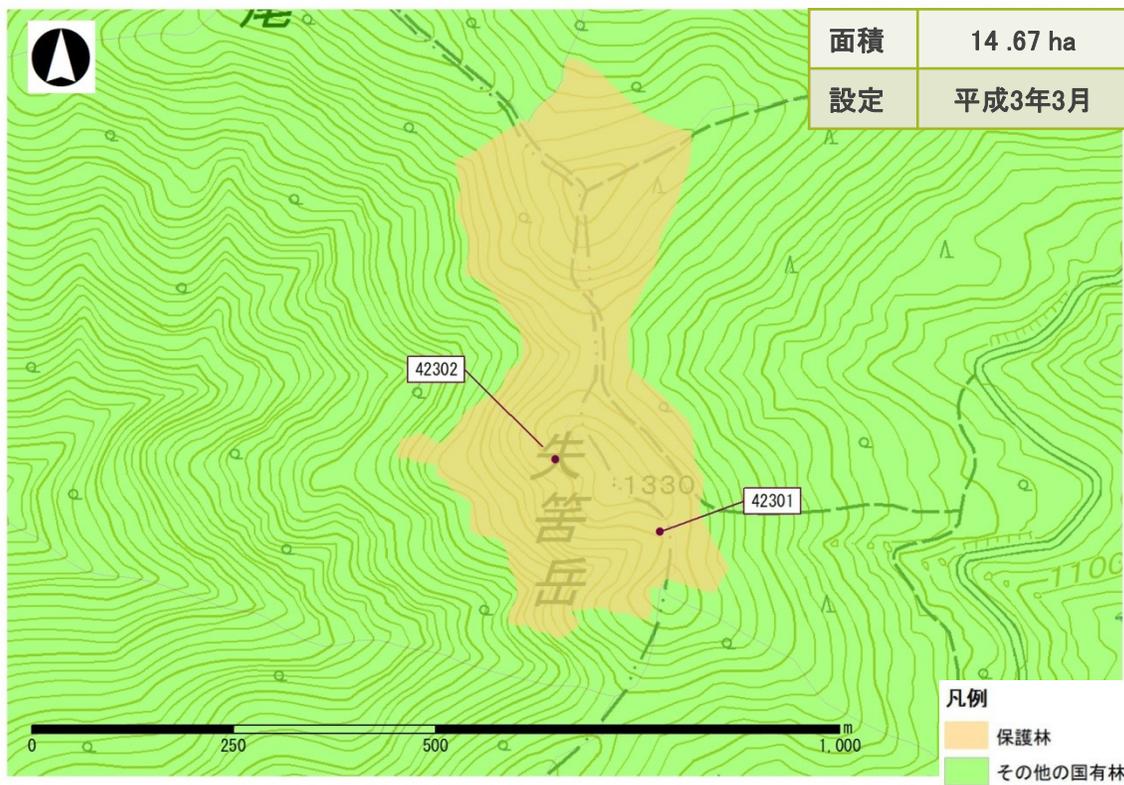
## ⑬ 尾鈴コウヤマキ希少個体群保護林

尾鈴山(標高1,405m)の南方で、都農町と木城町界の尾根を中心に左右に分かれてあり、旧西都営林署部内と日向営林署部内に位置し、標高約1,300mである。林相は、コウヤマキと広葉樹林からなっている。コウヤマキ群生地分布南限で希少価値が高いものである。



保護・管理を図るべき事項

コウヤマキの保存



### H22-26 調査結果 (森林調査・シカ被害調査)

- 全域でシカ被害 (シカ被害レベル4) (H26)
- コウヤマキの枯損や倒木を確認(H22・H26)

### H31調査

【必須項目】森林**詳細**調査・資料調査

はちくぼ

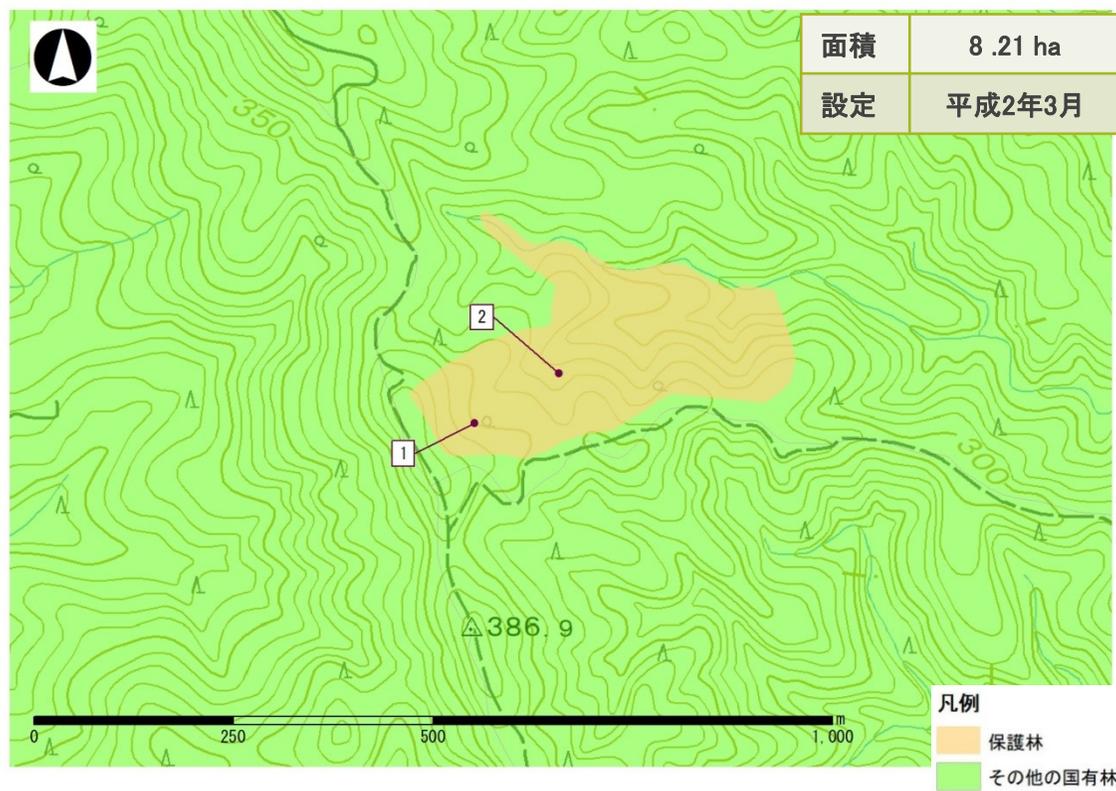
# ⑭ 八久保イチイガシ遺伝資源希少個体群保護林

宮崎大学演習林の北部に位置し、周囲は全て国有林である。林相は、スギ、ヒノキ人工林に囲まれたイチイガシ等の広葉樹林であり、周辺には天然生林は残っておらず保護林としての機能が期待される。



保護・管理を図るべき事項

イチイガシの保存



## H22 調査結果 (森林調査・動物調査・シカ被害調査)

- シカ被害は確認されていない
- 高木層にはイスノキが優占し、その他イチイガシ、タブノキ、アオキ、ヤブツバキが確認された

## H31調査

【必須項目】森林**詳細**調査・資料調査

## 【選択項目】

### ◆聞き取り調査

シカの侵入拡大状況について登山客や森林官等から情報を入手

になじり

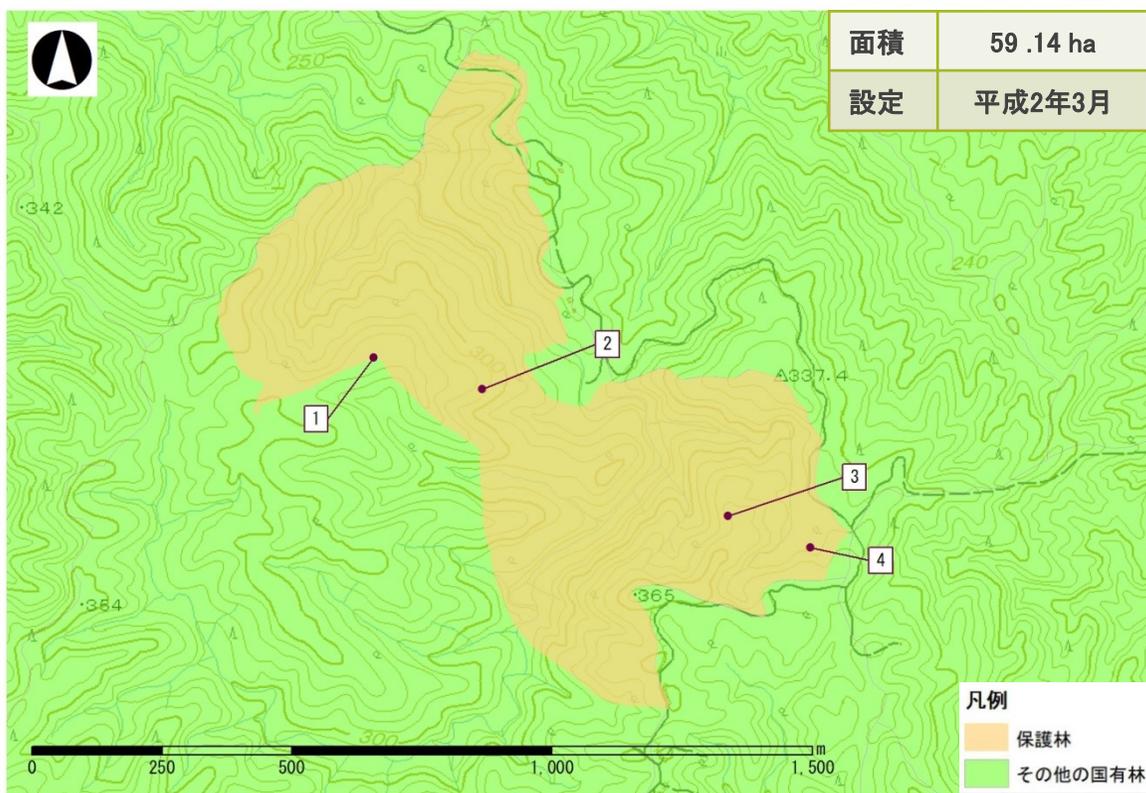
# ⑮ 蜷尻ツブラジイ等遺伝資源希少個体群保護林

国有林内の中央部に位置し、近くには高房台風致探勝林として指定された箇所もある。林相は、ツブラジイ、スタジイ、イスノキ、イヌマキ、イチイガシ等の針広混交林となっている。また、森林は、東南アジアからの渡り鳥「サンコウチョウ」の繁殖の場にもなっている。



保護・管理を図るべき事項

ツブラジイ、スタジイ、イスノキ、イヌマキ、イチイガシ



## H23 調査結果 (森林調査・動物調査・シカ被害調査)

- シカ被害は確認されていない
- 草本層にはアオキ、ヤブニッケイ、バリバリノキが生育

## H31調査

【必須項目】森林**詳細**調査・資料調査

## 【選択項目】

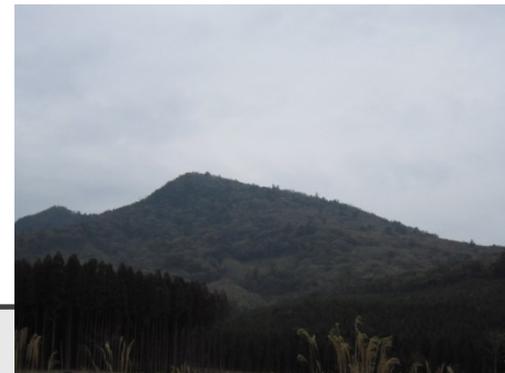
### ◆聞き取り調査

シカの侵入拡大状況について登山客や森林官等から情報を入手

かわぞえ

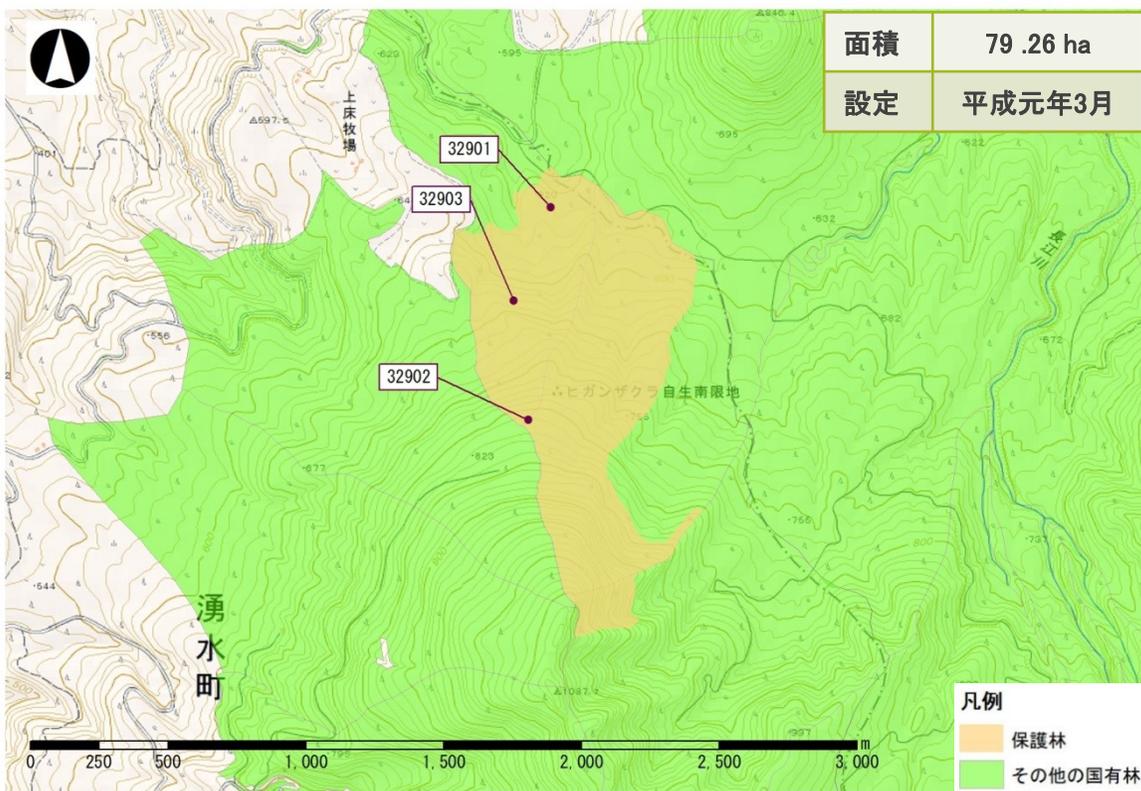
# ⑩川添タブノキ等遺伝資源希少個体群保護林

鹿児島県栗野町で、宮崎県えびの市の飯盛山(846m)と鹿児島県栗野町の栗野岳(1,004m)に挟まれた位置にある。林相は、タブノキ、イスノキ、シラカシ、アカガシ、スダジイ、ミズメ、クマシデ等の常緑天然広葉樹林が主で、標高600m~800mである。



保護・管理を図るべき事項

タブノキ、イスノキ、シラカシ、アカガシ、スダジイ、ミズメ、クマシデの保存



## H26 調査結果 (森林調査・シカ被害調査)

- 全域でシカ被害 (シカ被害レベル2~4) (H26)
- 希少植物種：ミヤマトベラ、キハダ、エドヒガン、シノブ、ヒナノシャクジョウ、クリシマシャクジョウ等が生育

## H31調査

【必須項目】森林**詳細**調査・資料調査

おもなわ

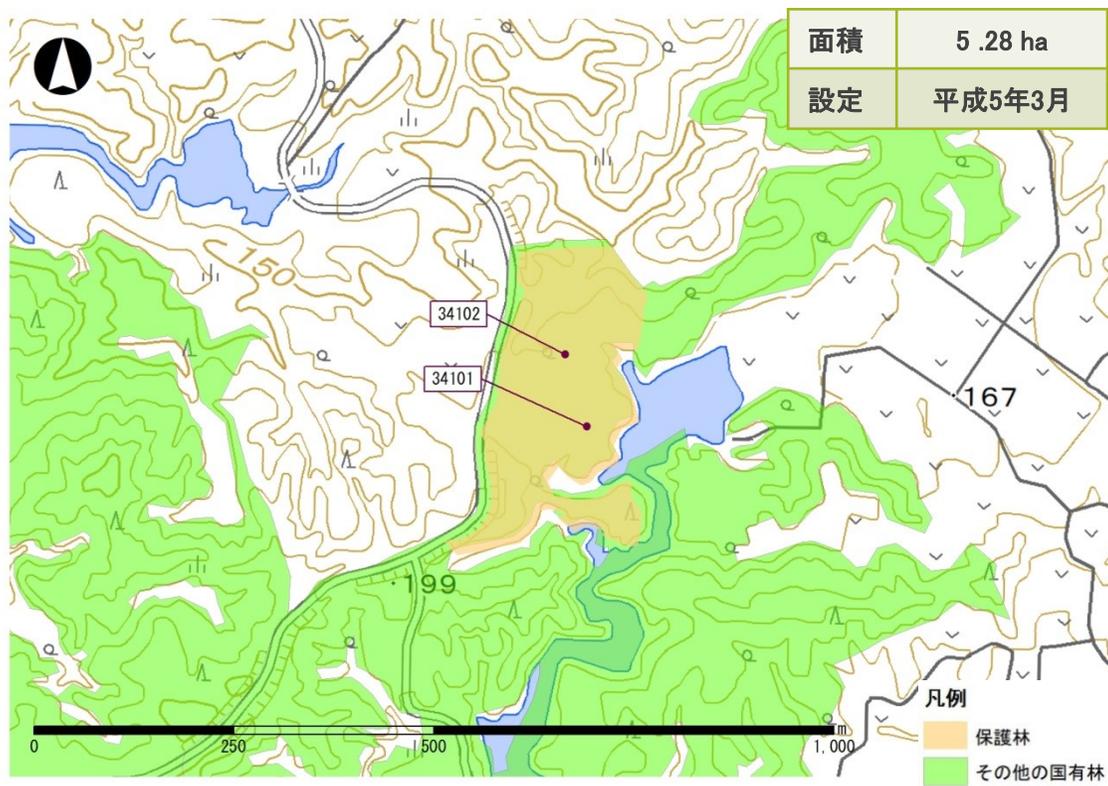
# ⑰ 面縄リュウキュウマツ遺伝資源希少個体群保護林

徳之島の南部で、標高約100m前後の隆起珊瑚礁地帯の兵陵に位置し、水源かん養林として重要な機能をはたしている。林相は、林内の約60%が高齢級大径木リュウキュウマツを主体とするが、スダジイ等の広葉樹もあり天然生針広混交林である。



保護・管理を図るべき事項

リュウキュウマツの保存



## H22 調査結果 (森林調査) 及び 署等からの報告

- リュウキュウマツ、スダジイ、フカノキ等が多く生育
- 松枯れ被害(リュウキュウマツ全体の10~20%)を確認 (署より)

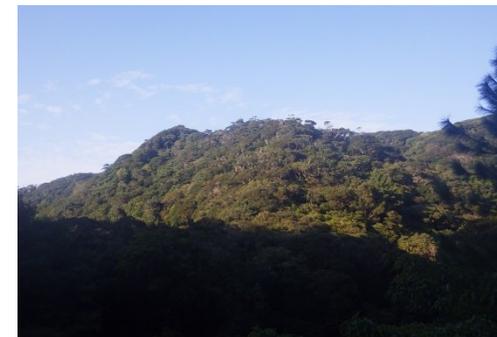
## H31調査

【必須項目】森林**詳細**調査・資料調査

たねがしま

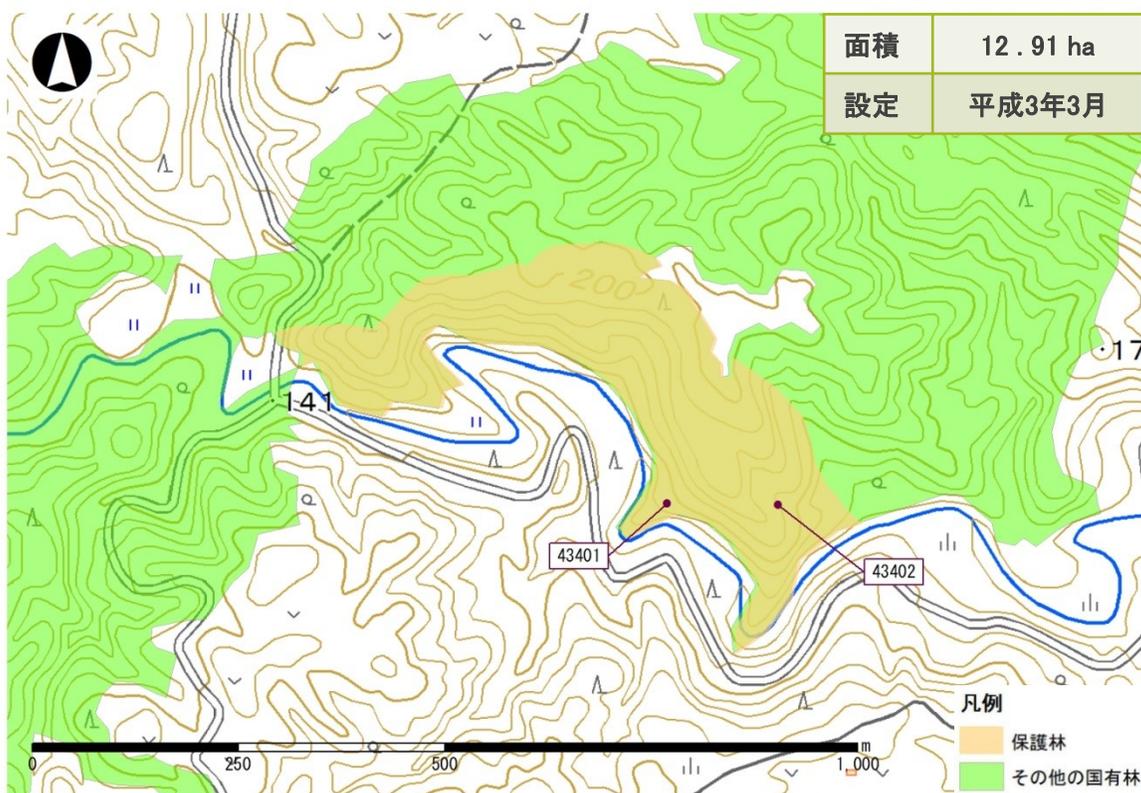
# ⑱ 種子島ヤクタネゴヨウ等希少個体群保護林

種子島のほぼ中央部で、西之表市の南部に位置している。林相は、シイ類、イスノキ、タブノキ等の老齢天然生林で広葉樹を主体とした林分であり、斜面上部に「ヤクタネゴヨウ」の大径木が点在している。また、イヌマキ、ナギ等があり、暖帯南部の多雨林的林相を呈している。



保護・管理を図るべき事項

「ヤクタネゴヨウ」その他種子島の代表的天然生林の保存



## H21・26 調査結果 (森林調査) 及び 署等からの報告

- シカ被害は初期段階 (シカ被害レベル1) (H26)
- ヤクタネゴヨウ大径木で松枯れ被害を確認 (H21・26)
- 希少植物種：ボウラン、ヤッコソウが生育(H21・26)

## H31調査

【必須項目】森林**詳細**調査・資料調査

## 【選択項目】

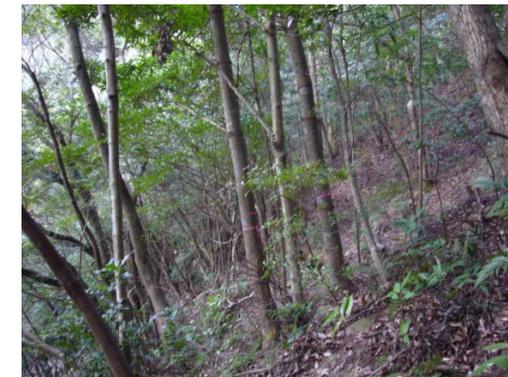
◆聞き取り調査

民国連携の取組み状況を把握するため。

わせだがわ

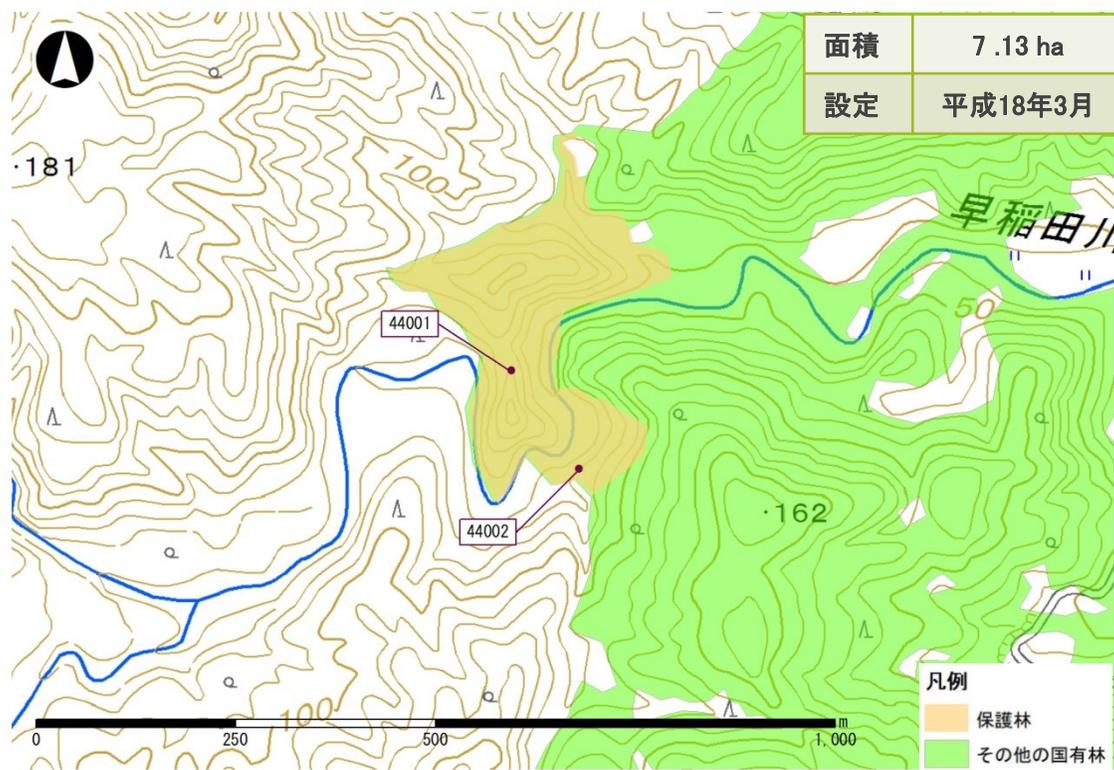
# ⑱ 早稲田川ヤクタネゴヨウ希少個体群保護林

種子島中心部の太平洋沿い、西之表市の南部に位置している。林相は、ヤクタネゴヨウ、スギ、クロマツ、その他広葉樹である。「ヤクタネゴヨウ」の大径木は点在している状況である。林内は暖帯南部の多雨林的林相を呈している。



保護・管理を図るべき事項

ヤクタネゴヨウ群落の保護



## H21・26 調査結果 (森林調査) 及び 署等からの報告

- シカ被害が確認 (シカ被害レベル2) (H26)
- ヤクタネゴヨウへの樹皮剥ぎ被害を確認 (H26)
- 希少植物種：ボウラン、ツルランが生育(H21・26)

## H31調査

【必須項目】森林**詳細**調査・資料調査

## 【選択項目】

◆ 聞き取り調査

民国連携の取組み状況を把握するため。

せぎれがわ

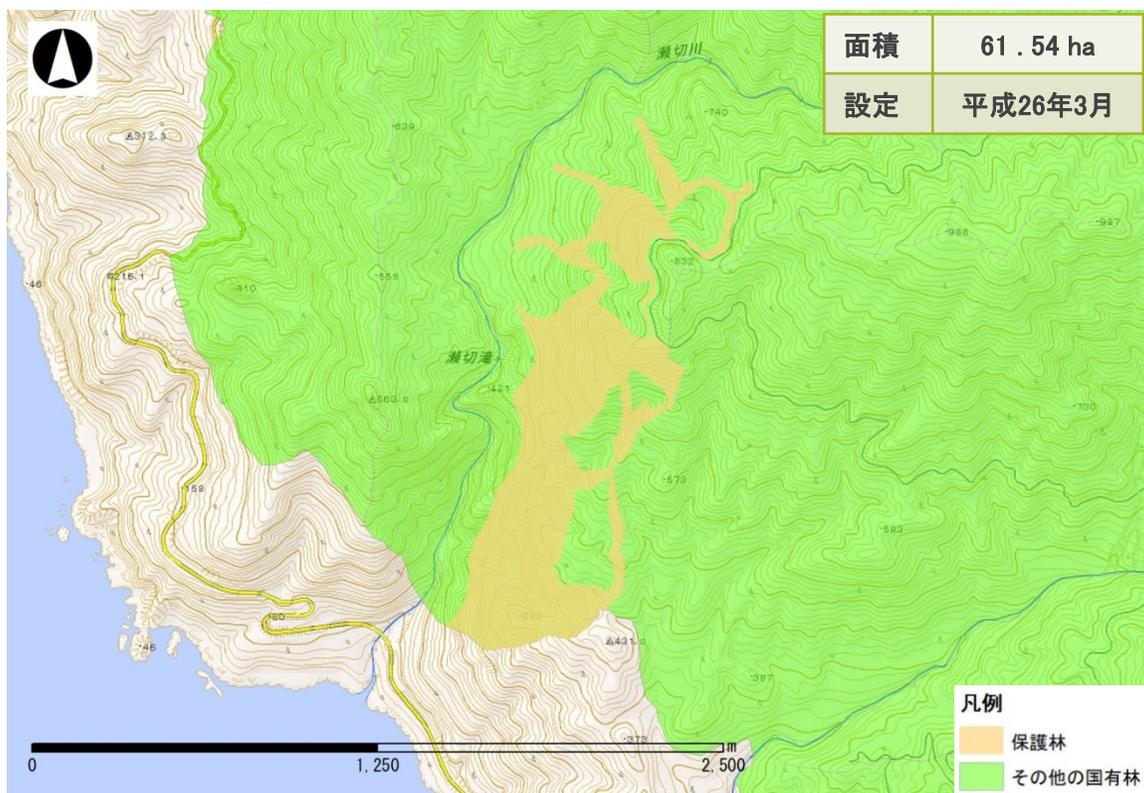
## ②⑩瀬切川ヤクタネゴヨウ希少個体群保護林

屋久島西部に位置し、屋久島森林生態系保護地域に隣接する箇所である。林況については、ヤクタネゴヨウのほかシイ・カシの二次林を主体とする森林である。



保護・管理を図るべき事項

ヤクタネゴヨウを含む針広混交林を保護



### H23 調査結果 (森林調査) 及び 署等からの報告

- ヤクタネゴヨウへのシカによる角研ぎ被害が確認(H23)
- ヤクタネゴヨウの松枯れ被害が確認されている (署より)

### H31調査

【必須項目】森林**詳細**調査・資料調査

### 【選択項目】

#### ◆聞き取り調査

民国連携の取組み状況を把握するため。